

2 小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和3年度 学校評価重点計画

小松市立栗津小学校

学校長 村戸 幸江

目指す児童像

・ みんなであいさつ みんなで思いやり みんなで自ら進んで一生懸命取り組む児童

目標

- ・ 自分たちで目標を見つけ、実現に向い、自ら考え、計画し、行動を継続する児童を育成する。
- ・ 関係機関と連携し、個に応じた指導と保護者理解を推進する。
- ・ 平準化を図り、児童に向き合う時間を確保し、効果的な指導法を身につけ、学び続ける職員集団を目指す。

（1）学校の現状と課題

現状

- ・ 明るく優しく素直な児童が多い。落ち着いた態度で、協力しながら学習できる時間も多い。
- ・ 保護者は、学校教育活動に協力的な方が多く、地域の方の学校への協力・支援も厚い。
- ・ 職員集団は、若く意欲的で、児童への愛情が十分である。

課題

- ・ 授業や教育活動を「自分ごと」としてとらえる「学びに向かう集団」に至っていない。
- ・ 特別教育や生徒指導の対応や教育相談に対し、関係機関と連携を図り、指導を継続中である。
- ・ 職員については、勤務時間の二極化解消・取組の共通実践を推進中である。

（2）目標達成のための具体的な手立て

① ところと「心」のつながりを大切にし、共に歩む

ア：「生き方」の発見（どのように生きるのか） イ：自立型学習の開発（GIGA・SDGs・キャリア教育）
ウ：児童と教師で目指す自律的な「学校・学級目標実現」 エ：自他の良さを認める「朝の会・帰りの会」の実施

② 学んだことを活かし勇気をもって挑戦することを支える

ア：学力の確実な定着 イ：積極的な output の設定 ウ：個別最適な学びと協働的な学びの充実
エ：教師と児童自らがもつマネジメント意識 オ：家でもっとやりたくなる学習サイクルの確立

③ 強く健やかに生きることを支える

ア：特別支援や不登校傾向児童への支援 イ：コロナ感染症対策やメディアコントロールを含めた健康安全指導の充実
ウ：スポチャレいしかわの取組を含めた運動に親しむ機会の設定

④ みんなで協働して創る「学び続け支え合う職員風土」の醸成

ア：子どもに向き合い教材準備をする日課の工夫 イ：効果的効率的かつ実践的な短時間OJTの工夫